



世界中のお客様との 信頼関係構築に向けて

スズキ株式会社 代表取締役社長

津田 紘

現在、世界中で約7000万台の四輪車と約4000万台の二輪車が生産されており、毎年その台数は増加しております。

その中でスズキは“小さなクルマ、大きな未来”をスローガンに、日本のみならず世界中のお客様にご満足頂ける個性的なクルマ作りに取り組んで参りました。

スズキは1909年に浜松で鈴木式織機製作所として創業し、1920年に鈴木式織機株式会社として法人設立されましたが、当時より独自の技術と絶え間ない創意工夫で優れた織機を製造してきました。

1930年代にはインドネシアなど東南アジアに輸出するまでになり、世界的な織機メーカーの地位を築くまでに成長いたしました。織機としての基礎技術と常に新しい機構を工夫する力は、モーターサイクルという新分野へ、そして四輪車へと大きく飛躍する土台となったのです。そして二輪車・四輪車の生産を開始してからも、日本だ

けでなく常に海外にも目を向け、1950年代から輸出を始め、さらには1967年にタイで二輪車組立会社を設立いたしました。

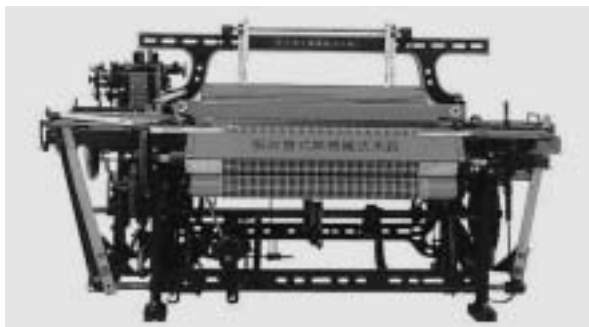
現在BRICsなど新興国での自動車市場が大きな成長を見せておりますが、スズキは早くからこのような国の現地生産を行なっております。

インドでは、国民車構想のもとインド政府と合弁で25年前の1982年に進出を決定し、1983年に四輪車の生産を開始いたしました。インドの自動車市場は特にここ数年大きな伸びを示しており、2006年度の乗用車市場は138万台と、5年前に比べると2倍の規模になっておりますが、スズキはその中で63万台強を販売し、確固たる地位を確立しています。

中国についても1980年代から技術提携により現地生産を開始し、1990年半ばには現地企業との合弁会社を相次いで設立しました。現在は四輪車2社、二輪車1社の合弁会社で生産を行なっております。

また欧州においては、1990年にハンガリーへの進出を決定し、1992年から生産を開始しました。現在では欧州向け小型乗用車の生産拠点として重要な役割を果たしており、2006年には累計生産台数を100万台を達成いたしました。

今から15～25年前に行なったこのような国々への積極的な投資がようやく実を結び、これらの海外工場は、



A46型 片側四挺杼 サロン織機

現在では『スイフト』、『SX4』といった世界戦略車生産の一翼を担うまでになっております。

さらに今後も生産能力増強を図り、インドでは年産96万台、ハンガリーでは年産30万台にまで拡大し、日本で2008年秋に稼働を開始する相良完成車工場ともあわせ、2009年度には全世界で300万台の生産能力にまで引き上げていく計画です。

また、スズキにとって次の成長に欠かせないのがロシアです。今年6月に現地工場建設を決定し、2009年から『エスクード』、『SX4』といった世界戦略車の生産を開始する予定です。

一方、二輪車については、従来より欧米向けの大型モデルは日本で生産し、アジア諸国での実用的なモデルはその国々の固有事情を考え各国に生産拠点を置く、という施策をとって参りました。特にアジアでは、タイと中国に研究開発拠点を設け、より市場に近いところでお客様が望む商品開発を行なっております。

このように、私たちは世界中のお客様にスズキ製品を広めるべく常に取り組んでおりますが、その根底をなすのは、いかにお客様の立場に立った“価値”ある製品をつくり上げるか、というモノづくりの思想です。人々の暮らしに役立ち心を満たす“価値”をつくり出すことは、モノづくりに携わる者にとって未来永劫変わる事の無い哲学だと思っております。

スズキは今まで長い間苦勞して、日本でモノづくりの技術・技能を培って参りましたが、これを海外生産拠点において現地の方々に移転しております。もちろん非常に息の長い仕事ではありますが、スズキのモノづくりの思想を現地の従業員に伝え、また逆に現地の従業員からも様々な思想を学ぶことで、絶え間なくモノづくりの思想を改善・改革しながら自動車産業の発展に努めていきたいと考えております。



GSX1300R 隼(ハヤブサ)



2008年欧州に投入する「スプラッシュ」

“ブランド”というものは大変分かりにくい言葉ですが、私は「信頼と安心の証」であると定義付け、商品・組織・従業員を見ただけで中身をしっかりと理解していただける会社になりたいと常々考えております。それではスズキブランドとは何かというとき、これまで二輪のモータースポーツで築き上げてきたスポーツマインドが中心にあるのではないかと考えました。これを商品に具体化したのが、『スイフト』、『エスクード』、『SX4』という世界戦略車であり、モーターサイクルでは『GSX-Rシリーズ』、『隼(Hayabusa)』、『スカイウェイブ』といったモデルです。これらの全ての核はスポーツマインドに特化しています。

さらに、『SX4』をベースにした車両で、2008年から“WRC(世界ラリー選手権)”に参戦いたします。これはまさにスズキブランドの具現化であり、技術開発に対する大きな挑戦でもあります。

また、“スポーツ”というステージから次の新たなステージとして、活動的なライフスタイルを楽しむ(Way of Life)家族に向け、2008年から『Splash』を欧州に投入いたします。

さらに次のステージでは、今まで小さなクルマ作りを得意としていたスズキが新たな挑戦として、持つ者の“ステータスシンボル”となるに相応しく、心を揺り動かさずにはいられないようなクルマを開発していきたいと考えております。

“価値”ある製品をつくり上げるのは普遍のテーマですが、その“価値”は時と場所によって常に変化していきます。スズキは世界のお客様が描いているそれぞれの“価値”に対して、今まで築き上げてきた技術と、また今後も更に進化していくモノづくりの思想により、常に喜びを感じていただけるような高品質の製品を提供してまいります。そしてお客様と長いお付き合いを続けていただけるような信頼関係を構築していきたいと考えております。